

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

▼ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
	ふれあい多居夢大宮独自の理念を掲示し、職員の目にとまり、初心に返れるような環境にしている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
	フロア会議での内容を管理者に明確に伝え、運営理念に沿ったケアの実践ができるように取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
	毎日の散歩や地域のいきいきサロンへのお誘い、参加、地域の方の将棋ボランティア等継続している。運営推進会議で自治会長さんとの交流も大切にし、地域の情報を頂いている。		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
	散歩中、声を掛けてくださったり、地域のボランティアの方も気軽に出入りできるよう、お付き合いができるようにしている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		
	毎日の散歩や地域のいきいきサロンへのお誘い、参加等で、地域の中で溶け込んだ生活をしている。運営推進会議で自治会長さんとの交流も大切にし、地域の情報を頂き、機会があれば行事等参加をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議で自治会長さんをはじめ、地域包括支援センターと連携をし、情報を頂いている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果は運営者、管理者、職員全員に目を通してもらい、再確認を行っている。ご家族には評価の結果をお渡しし、受領書を頂いている。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、入居者のご家族、自治会長、地域包括支援センター、本社職員、管理者で構成し、意見交換を行っている。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	認定調査等、常にさいたま市各区役所と連携を取り、相談している。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	以前、入居者の方に成年後見人制度を利用されていた為、理解している。		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束、虐待はホーム内での身体拘束委員会を中心に見直しに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時、管理者・本社職員が立ち合い、時間を掛けて説明を行い、理解を頂いている。その場で十分な理解を頂けない場合は、日を改め、契約の説明を行っている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>直接利用者が意見や不満を訴えた場合は、その都度対応している。ご家族には不満、苦情がないかを面会に来ていただいた際にお聞きしたり、電話等で話せる機会ができるように努めている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>定期的に「ふれあいつうしん」を作成し、ホームのニュースをお伝えしている。一時預かり金は毎月〆を行い、報告している。職員の異動や新入職の職員、居室担当の変更も適宜、お知らせを行っている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族の苦情や不満は管理者まで伝達する事ができている。訴えのあったものは、責任をもって解決を行っている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>定期的に社長面接を行い、フロアー会議では職員間の意見や提案を聞く機会を設けている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>フロアー会議、日誌等に記す事で情報の共有を行っている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>会社自体の内部転勤・転入もあるが、入居者との信頼関係を築く為に最善の努力をしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修は行っている。本年度その他の研修は開催できずにいる。		内部研修を積極的に行っていききたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会などの交流や研修の掲示をその都度行っているが、厳しいスタッフ情勢に付き、参加までは及ばず。		今後参加したい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩時間やスペースを確保しストレスにならないように配慮している。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	居室担当、行事、係の各業務分担を行い、担当者を中心により働きやすいように心掛けている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	日々の入居者の訴えは、ご自分から訴えられる人、ご自分から訴えられない人、それぞれ表情や行動、言動から察知し、話を傾聴し、ご家族と相談しながら解決している。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族が悩んでいることは、面会時には必ずお話をお聞きし、電話などでも伺っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訴えがあったときは、緊急の必要性をご本人、ご家族に確認し、迅速に対応している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始時は、外泊を基本とし、入居者の方の状態を観ながら、徐々にグループホームの生活に慣れて頂いている。外泊、外出はご家族の方にもできる限りお願いをし、グループホームだけの生活にならないように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の方の生活上必要な援助は行うが、一緒に生活しながら様々なことを入居者の方から学んでいる。料理や洗濯をはじめ、礼儀、昔の日本のこと、時には職員の相談事を聞いてもらい、アドバイスを頂いている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の気持ちをよく理解し、入居者の方の介護を一緒になって考えている。ご家族の前で「ばあちゃん、じいちゃん、おとうさん、おかあさん等」呼んでいる。ご家族にもご了解頂いている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者の方とご家族の関係は、それぞれのスタッフが把握し、理解に努め、より良い関係が築いていけるよう支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外の知人の方が面会に来られたり、手紙のやり取りをされることを支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	できる限り、リビングに出てきて頂き、1階のみでなく、2階の入居者の方との交流もあり、気の合う方同士で過ごされている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>退居された方や、亡くなられた方のご家族の話などを聞きながら、関係を大切にしている。</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>				
<p>1. 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>ご本人の希望、生活スタイルを一番に考え、介護計画を立てている。ご本人に判断が難しい場合は、ご家族に現状を伝え、一緒になって介護計画を立てている。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>契約時に発症経過シートの記入をお願いし、生活歴の把握に努めている。不明な点はその都度、ご家族に連絡を取り、ご本人らしさが失われないように配慮している。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>残存続機能を信じケアを行っている。その時のご本人の気持ち、メンタル面の考察を一番に行い、入居者の心身状態を把握するように努めている。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>				
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ご本人、ご家族とよく話し合い、介護計画を作成している。</p>		
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>基本的に3ヶ月ごとに介護計画のモニタリングを行っている。入居者の状態に合わせて、1ヶ月でモニタリングを行う場合もある。モニタリングの結果から再度アセスメントを行い、目標の設定をご家族、居室担当、計画作成者で考えている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に対する記録をCPと題し、詳細に記録を行っている。前回の介護計画と新たな介護計画の変更事項が分かるように記してある。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人やご家族の希望に合った支援ができるよう、その都度相談に応じている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアさんの受け入れや近隣保育園との交流も定期的に行っており、運動会に招待されたり、敬老、節分など行事の際、訪れて下さり、良好な関係が築けている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	認定調査で来訪されたケアマネジャーの方と情報の共有をしている。グループホームへの入居の依頼等、相互関係を築いている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの方等、必要に応じて相談を行う事ができる。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の定期往診をはじめ、必要時は優先的に診察をして頂いている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>ホーム近くの精神科との連携を取っている。かかりつけ医も認知症に理解を示して頂ける先生で、柔軟な対応をして下さっている。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>以前、利用していた訪問看護ステーションに、必要時は訪問看護サービスの利用も行っている。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院は原則、治療期間のみと認識しており、担当医にはグループホームで生活できる状態であるならば、ご家族と相談し、積極的に退院の許可を求めている。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>介護計画更新時には必ず、ご家族の方と今後の方向性を相談している。重度になりそうな場合、今までの経験を活かし、早い段階でご本人、家族、かかりつけ医、職員で話し合いを行っている。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>ホームの中では「やってあげたいことと、できること、できないこと」に分類し、毎日の介護に当たっている。終末期はご家族、かかりつけ医、ホーム職員で話し合いを行い、対応してきた。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>他のふれあい多居夢に入居待ちの方もいらっしゃったが、生活環境の変化が認知症の方には非常に大きな影響があることをご家族に相談の上、慎重に話し合いを行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>ご本人以外は全てイニシャルにして記録し、個人情報を取り扱っている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>ふれあい多居夢大宮の基本は「できることは自分で、できないことは一緒に」をモットーにケアを行っている。ご本人がストレスにならないようにできる限り見守り、さりげなくサポートを行っている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>日々の日課はあくまでも目安であり、入居者の希望に沿って散歩や買い物、時には外食にもなったりもある。玄関にも鍵をかけておらず、間接的な身体拘束も行ってない。</p>	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>毎月、出張美容で理容師の方が理・美容のサービスを行っている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者 と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>買い物から入居者の方一緒に行っている。時には食事メニューから一緒に考え、入居者の方が中心となって作る事もある。調理、盛り付け、配膳、食べる、下膳、片付けを毎日一緒に行っている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>毎日、晩酌しておられる方もおられる。好みのものを禁止することはしていない。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>排泄介助をされている方は排泄チェック表にて、誰が見てもすぐに分かるような一覧になっている。記入も記号を使用し、書きやすく工夫をしている。リハパン 綿パン+パッドにレベルアップしている方もいる。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>原則は入浴を希望され、バイタルに問題がない時は優先して入浴をして頂いている。入る時間帯も入居者様の希望に沿って対応している。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>できるだけ入居者のストレスとならないようにケアを実践している。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>契約時に発症経過シートをご家族にお渡しし、生活歴の把握を行っている。それをヒントに毎日のケアを行っている。趣味活動も、一人ひとりに合ったものをご家族と相談しながら行っている。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理ができる方は、ご家族と相談をしながらお金を所持して頂いている。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>基本的には買い物は毎日出掛け、天気の良い日は積極的に散歩の声かけをしている。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>出来る限り希望に沿えるよう心掛けている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は必要時、事務所のものをお貸ししている。携帯電話を持ち込まれている方もいらっしゃる、定期的にご家族に手紙を書いていらっしゃる方もおり、投函はスタッフが行っている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は設けておらず、玄関の鍵もかけていない。いつでも気軽に訪問でき、居室又は和室を使って頂き、居心地よく過ごせるように対応している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対する意識を高め、身体拘束をしないケアにスタッフ全員で取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的に夜間の防犯上以外は玄関の鍵はかけていない。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中の所在確認は随時、夜間も最低3回以上は巡回を行い、入居者の方の安全確認を行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	物品庫以外は施錠していない。洗剤や漂白剤、その他危険と思われるものは、入居者の方の目の届きにくいところで管理を行っている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止に対し、ヒヤリ・ハットを積極的に書いて事故防止に努めている。事故が起きてしまったときは、事故報告書をもとに、再発防止に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	新人研修において行っている。また、119番の通報訓練や水消火器の訓練も行っている。		夜間事故の対応訓練も行いたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難経路や災害時の対応は把握できていると思う。自治会とは自治会長さんを通し、色々と協力をして頂いている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	面会等でお会いした時に、最近の様子などを含め、入居者の方の処遇に関しては、その都度確認を行い、対応している。「できる限りできることは行う」の考えで処遇を検討している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化や異変には、全ての職員がすぐに察知できるように努めている。気付いた際には、すぐにかかりつけ医、ご家族への報告を行っている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	今、飲んでいる薬ファイルを使用し、与薬時は毎回確認を行っている。居宅療養管理指導で薬剤師の指導も受けており、必要時には電話で対応して下さる。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日々の運動等、なるべく自然排便が出来るように配慮している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの声掛け、実施を積極的に行っている。必要な方はうがい薬での口腔ケア洗浄も行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>週1回の体重測定で、体重の増減を把握し、食事量、水分量を調節している。</p>		<p>摂取カロリー計算は出来ていない。</p>
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）</p>	<p>インフルエンザの予防接種を励行している。外出後の手洗い、うがいは入居者の方、職員を問わず、行っている。</p>		
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>買い物は毎日が基本とし、賞味期限などには十分に注意している。夕食後はまな板を含め、毎日ハイター浸けを行い、キッチンの熱湯消毒、アルコール消毒、布巾の煮沸消毒を行っている。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>ホーム周辺には花を植え、一般家庭と同じように親しみやすく配慮している。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>食堂、玄関には花を置いたり、適度な明るさ、トイレには無駄な明るさや異臭がないように配慮している。生活感や季節感が感じられるような工夫もしている。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>随所にソファを置き、少し休めるような配慮をしている。食堂以外にも和室を使用しており、居室以外のパブリックなスペースも多く用意している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は洗面台、エアコン、クローゼット以外は全て持ち込みをお願いしている。毎日の生活で必ず手に触れていたものを持ち込むことで、少しでもグループホームの生活に早く慣れて頂き、今までの生活をして頂くことを基本と考えている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	冬場でも換気を行い、外の空気の取り入れを行っている。においは芳香剤の使用よりも、においのもとになっているものの排除を基本としている。冬季のトイレには暖房が設置されており、温度差が出ないように配慮している。室温調節もこまめに行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行空間には全て手摺りが設置されており、できる限り自分の足で歩くことができるような環境を整えている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの得意分野を把握し、買い物中に簡単な暗算をお願いするなどして自信をつけて頂き、失敗をした場合、原因の追究を行い、次に失敗しないような環境を整えている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に花壇があり、入居者の方が自由に行けるようになっている。花の水遣りなど、職員も付き添い、入居者の方が行っている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に つけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者の方、一人ひとりがそれぞれのペースで日々過ごせるように心掛けています。スタッフは「思いやりの心」を忘れずにいたいと思っており、認知症の方は、馴染みの環境、関係が最も重要であり、毎日変わらない平和で穏やかな生活を望んでいると思います。変わらない毎日の中にも、時には外出やイベントなどで楽しんで頂き、9名の方がここでの生活を心から喜んで暮らして頂けるよう、常に考えています。ご自分から体調の不調を訴えられない方がほとんどなので、職員全員が入居者のちょっとした変化にもすぐに気付く事ができるよう、気を配っています。入居者の方、スタッフ共に笑いの多い毎日を過ごしていきたい。入居者の方にとって、住み心地の良い環境はもちろん、スタッフにとっても働きやすい職場である事が大切だと思います。